

平成 30 年度 地球環境『自然学』講座 開講式

4月14日(土)午後1時から4時迄、此花会館にて表題の開講式及び、第1回講座が開催された。

今年の講座生は220名、この内リピーター164名、新規講座生56名と人気の講座である。

先ず濱面代表がご挨拶され、「自然環境保全に高い関心を持って取り組まなければならない。ここで得た知識、スキルを自分のものだけにせず、家族・友人に同じような課題にすべく図って頂ければと思います」といわゆる世の中の為になるよう頑張ってもらいたい旨のお話があった。



つづいて、田中 克(まさる) 京都大学名誉教授(当講座コーディネーター)が挨拶され「森里海のつながり、命の循環をさらに深めていきたい。目標に到達できないから、3年間の予定が後2年ということまで気持ちを新たに引き受けた。講座の先生方や新しい所を開拓しながら頑張りたい」と述べられた。そして2018年度の講義のねらい、自然観察会のねらい、地球環境自然学講座としての目標、コーディネーターとしての課題、最終年度の講座構想等について熱く語られた。



田中 克 先生

休憩の後、第1回の講座に移る。テーマは“有明海の再生”現代社会の歪みとして有明海がある。昔は宝の海、今は最も深刻な海の有明海は自然とともに生きる社会を生み出す「試金石」である。瀕死の海を宝の海に蘇生させる道は？

私たちの暮らしや経済の在り様の鏡。この鏡に向き合うことが出来るか。特効薬はない。解決への二つの道は、トップダウン的解決とボトムアップ的解決であると。モデルとしての韓国順天(スンチョン)湾自然生態公園や干潟のアサリを例に、生活の為に環境を都合よく変える人間と、自然をうまく利用して生きていく生物といかにして問題を解決していくか等々スライドで分かりやすく説明された。

最後は、平成29年9月に行われた自然学講座・海外観察会「ロシア・ウスリータイガの自然と文化」の報告を当講座スタッフの西尾 光市氏がテンポよく説明され、時には笑いを誘うお話で全てが終了した。

全20回の講座と6回の自然観察会が、楽しく充実したものになることを期待したいと思うばかりです。

最後に開講式を前にして、2016年度本科星組に親子揃って入学した講座生(2016年5月号に掲載)の声を聞くことが出来ましたので以下にご紹介します。(原文のまま)

(広報 中谷)

親子で次は 地球環境『自然学』講座で学びます！

三宅 あずさ (シ22)

今春から、私は父と地球環境『自然学』講座で学ぶことになりました。

2016年4月に、父と親子でシニア自然大学校に入学し、星組で学んで早2年。この度親子そろって卒業し、その次のステップとして再び親子でこの講座を選択しました。次はどんな学びができるのか、今、期待でいっぱいです。

振り返ると星組の2年間で学んだことは数え切れませんが、すでに私の日常に生きています。なんとと言っても、この春の訪れが日々具体的に楽しいのです。入学前は、というと、春が来ても温もりと花々の美しさを大雑把に楽しんでいただけのように思います。ところが、星組を卒業した今は違います。桜が散った後に葉がすくすく育つ様子。落葉樹の枝から次々と顔を出す葉芽。夜風に乗って香る花。自宅の庭を何とはなしに歩いては、小さな春を見付ける喜び。クロッカス、ツクシにタンポポ。タンポポにいたってはセイヨウなのかニホンなのかをチェック！おや？ツツジの木の中にモズの巣を発見！といった具合です。春とはこんなにも楽しさと喜びに溢れる季節だったのですね。星組で学んだからこそ気付くことができました。入学した時に期待した「自然が空や海、草木花にも似た彩りを人生に添えてくれること」をまさに実感できています。

学んだことは自然のことだけではありません。星組でお世話になった皆さんを通じ、人と人との絆の大切さ、培ってこられた人生経験の重み。健康であることの幸せなど、人として大切なことを教わりました。

また、父と学んだ2年間としても心に残ります。この2年の間に父は脳梗塞を患い、以前よりは平衡感覚が崩れて疲れやすくなっているようでした。それでも、講座をほとんど休まず出席でき、こうして親子で卒業できたことは何より嬉しいことです。

お父さん、これからも一緒に自然大学校で学んでいこうね。